

番号 **3** 平成27年度公共事業事後評価調査書 担当課名 [ 道路整備課 ]

事業名	道路改築事業	事業主体	静岡県
箇所名	主要地方道島田吉田線バイパス (船木工区)	市町村名	島田市

事業概要					
事業期間	当初	平成18年度～平成22年度	事業費	当初	1,420百万円
	実績	平成18年度～平成22年度		実績	1,328百万円

事業量	当初延長：1.0km(船木工区) 実績延長：1.0km(船木工区) 道路幅員：車道幅員8.0m(全幅15.0m) 完成2車線，両側歩道
-----	---

事業の目的・必要性

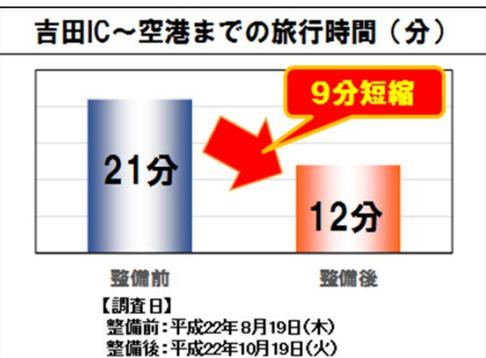
主要地方道島田吉田線バイパスは、島田市旭町の現道との交差点（旭1丁目交差点）を起点とし、榛原郡吉田町の東名吉田ICまでの延長約6.5kmの主要な幹線道路である。  
本路線の現道は、一級河川大井川の渡河断面の不足に伴い慢性的な渋滞が発生しており、地域の社会生活や経済活動に大きな影響を及ぼしていたため、本バイパスを整備した。  
本バイパス事業区間のうち、最後の整備区間となる本（船木）工区は、県道 住吉金谷線との交差点（初倉消防東交差点）と現道との交差点（船木交差点）を結ぶ区間の延長L=1.0kmを整備するものであり、平成18年度から事業着手し、平成22年9月に供用を開始した。  
本工区の整備により、現道の慢性的な渋滞緩和とともに、東名吉田ICから富士山静岡空港や島田市街へのアクセス及び利便性の向上を図ることができた。

事業の効果等

費用対効果分析結果	当初	B/C	総費用	億円	総便益	億円	基準年
		-	( 事業費： - 億円 維持管理費 - 億円 )	( 便益： - 億円 便益： - 億円 便益： - 億円 )	-	-	-
事後	B/C	総費用	15.57	億円	総便益	107.00	基準年
	6.87	( 事業費： 15.05億円 維持管理費 0.52億円 )	( 走行時間短縮便益： 95.23億円 走行経費減少便益： 8.28億円 交通事故減少便益： 3.48億円 )	15.57	107.00	平成 27 年	

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化  
事業実施当初、費用対効果分析（B/C）をしていないため、比較できない。

- (2) 事業効果の発現状況
- 【円滑な交通の確保】
    - ・島田吉田線バイパスへの適正な交通転換が図られて、地域の課題となっている現道の渋滞は、最大で941mであったが、事業区間の整備により渋滞が解消された。
  - 【広域観光・交流の促進】
    - ・観光の窓口となる空港・ICへのアクセス性が向上した。
  - 【防災力・地域連携の強化】
    - ・島田吉田線バイパスが全線開通したことにより、緊急輸送路が強化された。
    - ・東名高速道路へのアクセス機能が向上した。



事業実施による環境の変化

【沿道の環境変化】

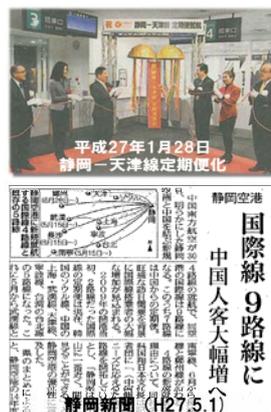
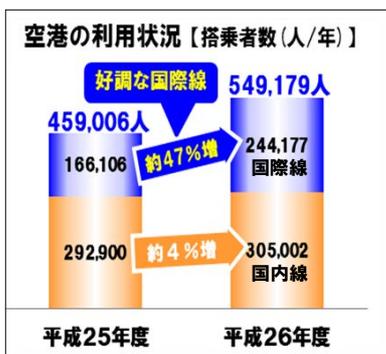
道路整備による区間の短縮により、下記の通り窒素酸化物(NOx)、二酸化炭素(CO2)及び浮遊粒子状物質(SPM)の排出量の削減が想定される。

- ・ NOx削減量 : 7.96 t-NOx/年 ⇒ 5.67 t-NOx/年 (2.29 t-NOx/年(約29%)削減)
- ・ CO2削減量 : 2,938.5 t-CO2/年 ⇒ 2,321.1 t-CO2/年 (617.4 t-CO2/年(約21%)削減)
- ・ SPM削減量 : 0.46 t-SPM/年 ⇒ 0.32 t-SPM/年 (0.14 t-SPM/年(約30%)削減)

『2005道路政策評価通達集』の算定式より

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 富士山の世界遺産登録効果もあり、富士山静岡空港の国際線の利用者数は平成26年度過去最高を記録
  - ・ 県では空港運用時間の延長、旅客ターミナルビルの増改築を進め更なる利用客の獲得に動いている
  - ・ 空港アクセスについても、浜松地区のリムジンタクシーの運行、藤枝市による藤枝駅からのシャトルバスの試験運行が始まる
- 上記より、当該路線は、富士山静岡空港と世界遺産富士山をはじめとした各観光地へのアクセス道路として利用増加が考えられる。



	平成26年6月1日	平成27年6月1日
国内線	4路線、週42便	4路線、週42便
	3路線、週13便	10路線、週36便
国際線	ソウル、武漢・上海、台北	天津、寧波、南寧、武漢、西安、長沙、鄭州
合計	7路線、週55便	14路線、週78便

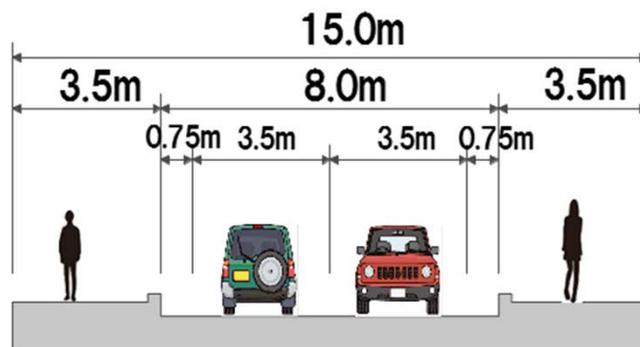
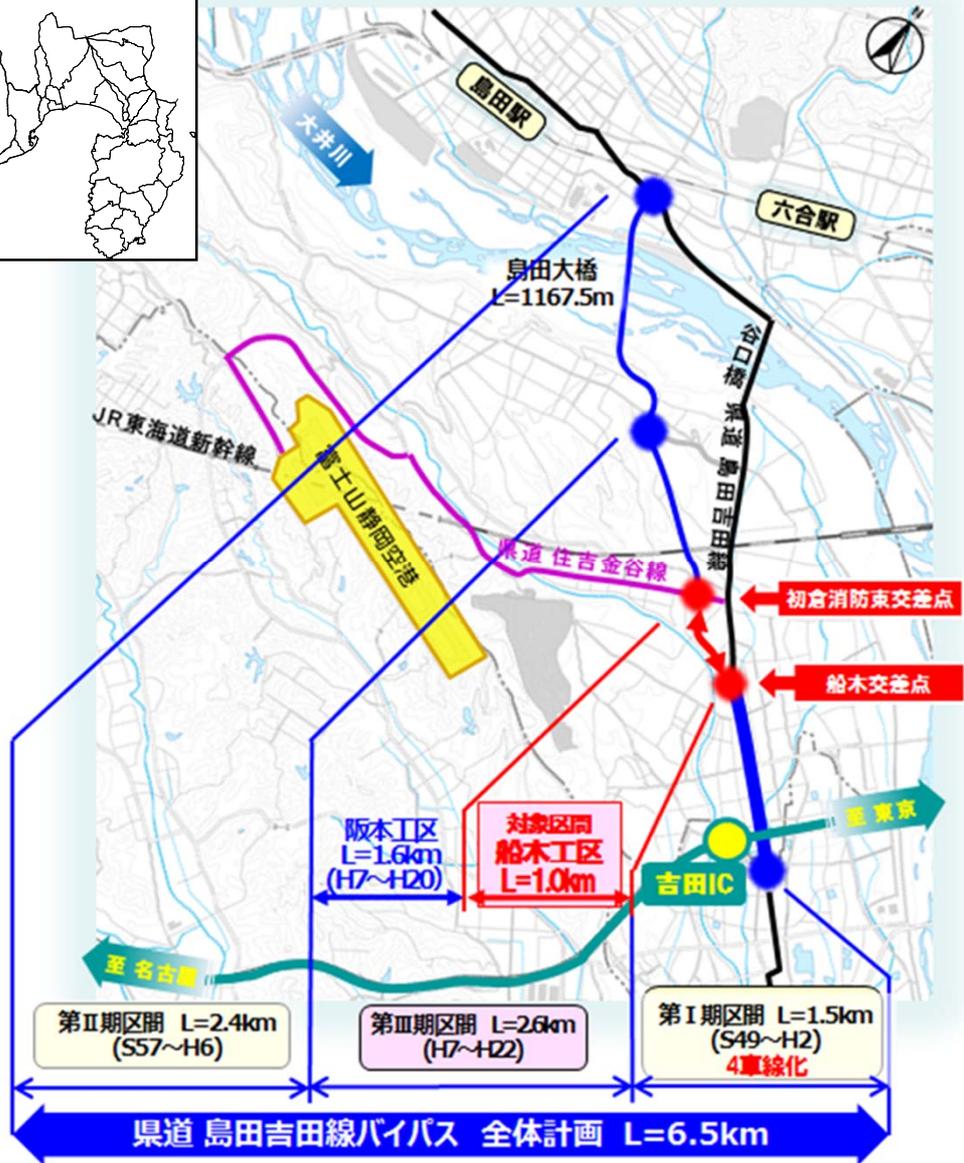
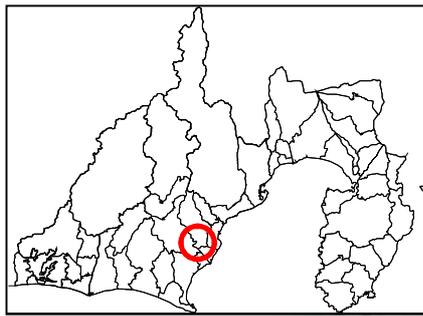
搭乗者数の増加

新規国際線の就航

対応方針(案)

- 1 事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。
  - ・ 船木工区の整備により、現道を含めた交通円滑化が図られた。
  - ・ 広域観光・交流の促進が図られた。
  - ・ 東名高速道路 吉田ICから富士山静岡空港へのアクセス性の向上が図られている。
- 2 今後の課題・対応
  - ・ 本路線周辺の道路整備を引続き着実に進め、地域内交通のネットワーク強化を図る。
- 3 同種事業への反映等
  - ・ 各路線のもつ機能を十分に把握し、課題を整理することで無駄のない効率的な道路整備を進めて行く。

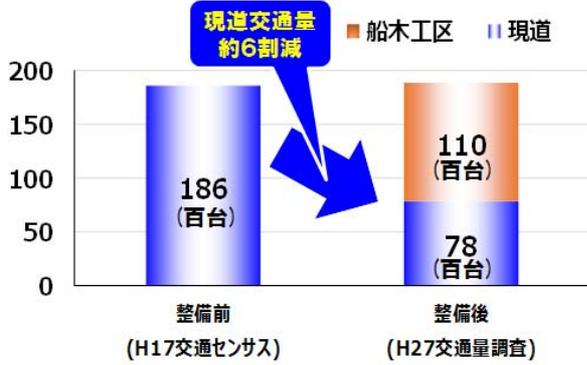
## 位置図



## 交通の円滑化

### 現道からバイパスへの交通の転換

#### 交通量の変化<整備前-整備後>



### 慢性的な交通渋滞の解消

